

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成25年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立八ヶ岳少年自然の家	所管課	社会教育課
所在地	北杜市高根町清里3545	設置年月日 (改築年月日等)	昭和48年8月21日 (平成18年3月15日 大規模改修)
管理方式	指定管理者(公益財団法人山梨県青少年協会、平成18年4月1日～)		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立少年自然の家設置及び管理条例		
設置目的	自然の中で、集団生活を通じて自律、協同などを体験的に学習する場を提供すること。各種事業の実施を通じて、豊かな自然の中で情操を養い心身共にたくましい少年を育成する機会を提供すること。		
主な施設内容 (定員等)	宿泊室 26(8人用20室、10人用4室、5人用2室) 食堂(204人)、乾燥室1、講堂(200人)、プラネタリウム(50人)、体育館1 研修室3(30人用1室、40人用1室、50人用1室)、クラフト室2(40人用2室) キャンプ場(180人)		
主な業務内容	利用の承認に関する業務 施設及び設備器具の維持保全に関する業務 集団生活を体験させる集団宿泊訓練に関する業務 野外観察、自然探求その他の自然に親しませる学習活動に関する業務 体育、レクリエーション及び野外活動に関する業務		

2 類似施設・近隣施設

名称	山梨県立愛宕山少年自然の家:定員150人
施設内容	山梨県立なかとみ青少年自然の里:定員108人
利用状況等	山梨県立ゆずりはら青少年自然の里:定員100人

3 利用状況

単位:人、%

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 (目標値)
利用者数	宿泊棟利用	34,466	34,478	32,746	
	キャンプ場宿泊利用	5,900	4,475	3,431	
	日帰り利用	1,899	1,810	2,987	
	利用者数合計	42,265	40,763	39,164	
	目標値	38,400	39,200	39,400	39,500
	目標値設定の考え方	平成22年度目標値の0.5%増の値から、震災・計画停電による4月キャンセル分を勘案し調整	平成23年度の目標値を調整前目標値とし、その値の約0.5%増	平成24年度目標値の約0.5%増	平成23～25年度実績の平均を基にした比率で割り振った
	対23年度比	100.0%	96.4%	92.7%	93.5%
	宿泊室稼働率	46.5%	46.6%	44.9%	
	定員稼働率	57.2%	57.2%	54.1%	

4 収支状況

単位:円、%

		平成24年度	平成25年度 (計画値)	平成25年度 (実績値)	平成26年度 (計画値)
収入	施設利用料	4,602,660	3,959,000	4,379,775	4,581,000
	指定管理者委託料	97,204,000	96,224,000	96,224,000	95,403,000
	その他	2,816,299	3,380,000	2,881,770	5,111,000
	収入合計(A)	104,622,959	103,563,000	103,485,545	105,095,000
支出	人件費	50,860,112	61,820,000	54,250,461	53,731,000
	県への納付金	0	0	0	0
	管理運営費	50,281,803	41,743,000	42,446,021	51,364,000
	(うち外部委託費)(B)	13,894,405	12,787,000	11,347,278	13,653,000
	支出合計(C)	101,141,915	103,563,000	96,696,482	105,095,000
収支差額(A - C)		3,481,044	0	6,789,063	0
外部委託比率(B ÷ C)		13.7%	12.3%	11.7%	13.0%
利用者一人当りの経費		2,385	2,442	2,457	2,415

5 利用者満足度

実施方法等	実施時期:平成25年4月～26年3月 実施方法:宿泊利用団体へのアンケート 回答数:216団体
-------	--

単位: %

調査項目	満足・十分	普通・ どちらでもない	不満足・ 不十分	不明・ わからない
ねらいや目標の達成	96.4%	0.0%	3.6%	0.0%
施設運営	96.1%	0.0%	3.9%	0.0%
職員対応	99.8%	0.0%	0.2%	0.0%
活動(プログラム)	99.2%	0.0%	0.8%	0.0%
食堂・食事	97.6%	0.0%	2.4%	0.0%
利用にあたって	99.5%	0.0%	0.5%	0.0%
各項目の平均	98.1%	0.0%	1.9%	0.0%

利用者の意見	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校の職員の念入りな打合せを行い、指導体制をもう少し整えたかった。 2 宿泊室の天井に落書きがあった。 3 消灯後や起床時間前に他団体がうるさかった。 4 宿泊棟の玄関の、コンクリートの段差が危険ではないかと気になりました。 5 ゴミは回収してほしい。 6 他団体が自分たちのサイト内で活動していたので不安を感じた。 7 入浴時間について(男女バランスによって時間の延長をしてほしい。) 8 道しるべを増やしてほしい。ルートなど変更が少しあるとさらに楽しそう。(スノーシュー、ガイド付きのウォーキングコース等があったら楽しい) 9 配膳、食事について(時間が足りない。食材の量が多すぎ、おかずが冷たい。) 10 プログラム相談が大変であったがとても素晴らしい活動であったと思う。 11 利用者研修会に参加して教えていただいたことが、実施にあたり大変役立った。 12 毎年、利用させて頂きありがとうございます。職員や食堂の方にさわやかな対応をして頂き感謝しております。今年も充実した活動ができました。色々と施設周辺の事や施設内のことを、丁寧に教えていただき、大変に感謝しております。この素晴らしいスタッフの方々と豊かな大自然の中で子供たちの心に貴重な財産を残してあげられると確信しました。
--------	--

<p>利用者の意見への対応</p>	<p>1 利用にあたって、各団体のねらいや目的が達成できるよう、事前に行うプログラム相談をしっかりと行い、指導者やリーダーの分担について確認する。また、利用当日も各団体の目的に沿った活動支援を行う。</p> <p>2 見つけたらすぐに消すようにするとともに、宿泊室の点検を定期的に行っていく。</p> <p>3 夜間は宿直職員が注意し、団体指導者へも注意してもらえよう伝える。また、消灯時間以降や起床時間まで静かにすることをプログラム相談時に説明する。</p> <p>4 コンクリートに目立つように色を塗るなどして対応した。ユニバーサルデザインの視点に立った表示を今後もさらに心掛けて実施していく。</p> <p>5 ゴミに対する意識を見直してもらうためにも、残飯、残菜を除いて原則、ゴミは持ち帰ってもらうように協力をお願いする。</p> <p>6 オリエンテーションの際に、他サイトでの活動はしないように伝える。</p> <p>7 入浴時間に対してはプログラム相談時に調整をしているが、利用団体の男女比と年齢層を考慮し調整していくようにする。</p> <p>8 絵地図の改善を行った。迷いやすい部分には指導者が立ってもらうようにする。毎年ルートを変更することは難しいが、安全管理を行い、新規のプログラムを開発していきたい。</p> <p>9 温かい食事を提供するため、10分前からの配膳準備をお願いしている。時間が足りないという要望であるが、利用人数が多い場合は、食事準備係を増やすなどして対応してもらう。食材の量の過多や食べ残しについて、リサイクル用のコンポストを設置し、食育を含め環境に配慮している。また、利用団体の年齢層を考慮して、野外炊事材料の量についても調整できるよう、指導者へアドバイスしていくようにする。平成26年度より、メインも保温用のプレートに入れ、食べる前に各団体に配膳してもらい、温かいものを提供できるように改善した。</p> <p>10～11 同日に利用する団体が集まり、相互の活動内容を理解することで、当日もスムーズな利用ができるため、今後も詳細に打ち合わせを行っていく。</p> <p>12 主催事業として、利用団体の指導者向けに研修会を開催し、各プログラムの目的や、指導者の役割について理解いただいている。多くの利用予定団体の指導者が参加してもらえよう工夫していく。</p> <p>全体として、利用にあたっての満足度はとても高い。今後も施設の安全管理を十分にいき、団体の利用目的が達成できるよう努力していく。</p>
-------------------	--

6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	業務仕様書等に基づいて施設の維持管理を行った。	業務仕様書、業務計画書に基づき、適正に実施されている。
運營業務	利用する側の立場に立ち、利便性や快適性の提供ができるよう十分考慮して執行した。また、利用の目的が、効果的に達成できるように業務を執行した。	業務計画のとおり、適正に実施されている。利用目的に沿った適切な運営・管理が利用者から評価を得ている。
自主事業	利用者サービスの一環として、常に利便性を考えて業務を執行した。	業務計画のとおり、適正に実施されている。イベントの回数や内容の充実を図り、利用者の利便性向上に努めた。
利用状況	2週にわたる大雪の影響により、2月の利用が大幅に減少したことが利用人数減の大きな原因となっている。また、本館、キャンプ場ともに、児童・生徒数の減少による団体規模の縮小も利用者減の原因となっている。施設整備等により、安全で利用しやすい施設づくりを行うとともに、県外の学校をターゲットにした広報活動等を積極的に行い、利用率向上を図る。	県内の学校への認知度は高い。今後も、利用者のリピーター確保とともに、積極的なPR活動等により、施設の認知度を高め、利用者増に向けて努力されたい。

収支状況	経費節減と費用対効果を十分考慮し、収支共に、ほぼ計画通りに執行することができた。	施設の老朽化もあり、修繕に要する経費が増加する中で経費削減に努めていることは評価できる。
利用者満足度	利用者との打合せや利用者アンケート等から利用者の満足度や要望を把握し、施設で対応可能なものについては、その都度対応し、満足度向上に努めている。	運営上の工夫で解決可能な意見に対して速やかな対応がみられる。利用者ニーズの把握と、管理運営へ反映させる努力が、利用者の高い満足度につながっていると評価する。
運営目標の達成状況	平成25年度の利用者数目標値は39,400人であり、利用実績は39,164人(達成率99.4%)であった。大雪の影響等による利用者のキャンセルがなければ目標値は達成したと思われる。 主催事業については、参加者数目標値1,565人のところ、実績2,975人(達成率190%)と大幅な伸びを示した。その他、施設維持管理などは適正に実施できた。今後も、職員による定期点検を継続すると共に利用者の声に耳を傾け、迅速な対応をしていく。	
施設所管課による総合的な評価及び指導事項	現地にて、施設内外とも管理がよく行き届いていることを確認した。 維持管理業務・運営業務については、適正に実施されており、利用者満足度調査における評価も良好である。 新規プログラムを積極的に追加し、主催事業では目標を超える実績の伸びがあるため、今後も、経費削減、費用対効果に留意しつつ、利用者の安全確保、体験プログラムの充実を期待する。	
施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況	今後も、利用者満足度調査の結果を踏まえ、維持管理・運営業務に活かし、安全で魅力ある施設づくりに努めていく。 併せて、年齢・対象ともに幅広く楽しんでもらえる新規プログラムの開発を行い、利用の拡大を目指したい。	

7 管理体制(組織図)

